

令和4年度第12回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和4年9月28日（水） 18時15分 ～ 19時30分
【場 所】 琴芝ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 琴芝地区コミュニティ推進協議会会長：井上 博己 琴芝地区社会福祉協議会会長：石原 孝行 宇部市環境衛生連合会会長：渡壁 正英 琴芝地区地域活動連絡協議会会長：福重 明美 宇部市婦人会協議会会長：藤井 恵子 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、琴芝ふれあいセンター、地域支援員）
【概 要】 1 開会 2 出席者紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会
【意見交換・懇談】
○自主的なボランティア活動の促進について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・地区内には有能な人材がたくさんいると思うが、その人材にいかに関与に参加してもらえるかが課題と考えている。 ・自らボランティア活動に参加するような雰囲気づくりや、後継者不足を解消する仕組み作りが必要であると思う。 【宇部市婦人会協議会会長】 ・婦人は各自治会からの人選で、基本的に順番に加入することになっており、イベントは手伝うが、自己研鑽に繋がっていない人が多い。一方、順番ということで若い人が入ってくる仕組みにはなっている。 ・現在の役員は、過去にPTA役員をやっていたころのつながりが生きている。「仕事をしているからできない」わけではない。子ども会をなくしてはいけないと思う。 【市長】 ・地域活動には参加したいが参加できない状況もあると思う。これは、社会の環境の変化に制度自体が対応していけていないことが原因の一つと考えている。地域活動に参加しやすくするため、これから「地域活動の日」を設定するので、ぜひ活用してほしい。 ・地元の地域活動のスタートは、PTA活動や子ども会活動であるが、現在の子ども会の

加入率は16%で、危機感を持っている。社会状況の変化による、子ども会に入りたくても入れない子どもたちでも、子ども会活動に参加ができるようにしてあげなくてはならない。

- ・11月に宇部市子ども会育成連絡協議会役員や各地区子ども会育成連絡協議会会長などとの市政懇談会を開催し、率直な意見交換を予定している。
- ・これらの活動の延長線上に地域活動があり、防災や安否確認など、地域活動が絶対に必要なところがある。ネットワークを再構築していくことが大きな課題であり、第五次宇部市総合計画には、地域活動の推進についても盛り込んでいる。

○空き家について

【社会福祉協議会会長】

- ・個人情報保護の関係で、情報が全く入ってこないため、地域の高齢者への見守りが難しくなっている。
- ・声掛けに行っても出てこなかったり、廃屋だと思っても実際は住んでいたり、再建築不可物件で売れない物件も多く、居住実態が掴みにくいので、実態調査をしてほしい。

【市長】

- ・空き家については全国で課題になっているが、個人の財産のため行政がすぐに対応するのが難しい。
- ・令和6年度に「不動産登記法」の改正が行われ、3年以内に相続登記をするよう義務づけられる。空き家の実態調査は平成28年、令和2年にしている。
- ・市では「空き家110番」を設置しており、空き家にさせないため「住宅情報バンク」等も紹介している。
- ・今年度から、専門家による「空き家流通促進プラットフォーム」を構築するなど、早めの自主的改善の促進に向けた仕組みを検討していく。

○SDGsの進行状況について

【環境衛生連合会支部長】

- ・昨年の市政懇談会で提案した件について、進行状況等を教えてほしい。

【市長】

- ・昨年度のSDGsに関する出前講座の件数は15件で、今年度は上半期で9件実施している。
- ・講師の派遣等は、市の連携共創推進課が担当しているので、気軽に相談をしてほしい。
- ・今後、市ウェブサイト等で、地域でやっているSDGsの活動を紹介・共有し、SDGsの啓発や市民への浸透等につなげていきたい。
- ・来年度に向けて、SDGsに関連した地域の活動を応援する仕組みを検討している。
- ・市もSDGsに関連する事業をしており、例えば子どもの貧困対策事業として、ヤングケアラーの啓発や支援ネットワークの構築に取り組んでいる。

○児童虐待防止対策について

【地域活動連絡協議会会長】

- ・児童虐待は情報把握が難しいという問題がある。もっと「189」のPRをしてほしい。

【市長】

- ・「189」については、しっかりと啓発を行っていく。
- ・「ヤングケアラーへの対策」や「子どもパントリー事業」などから小さなSOSが見えてくる。「うべおたすけまんぷく便」などで人間関係をつくりながら福祉サービスにつなげていく。この分野では日本の最先端を行きたいと考えている。

○出産・子育てについて

【地域活動連絡協議会会長】

- ・保育園や学童では、狭い場所に沢山の子ども達がいる。子ども達のための保育園や学童になっているだろうか。

【婦人会協議会会長】

- ・保育園は、入れるが希望する保育園に入れないのではないか。
- ・宇部には産科の病院が少なくなっている。
- ・若い人に定住してもらうためには出産・子育てしやすいことが重要ではないか。

【市長】

- ・現在、保育園は市全体では充足しているが、今後、保育実施計画の中において、エリアごとに分けて考えていくことにしている。しっかりとニーズに答えられるようにしたい。
- ・現在、市内には産科の病院が2院あり、山口大学医学部附属病院もあるため、比較的、産科は充足しているが、産科医の志望は少ない状況である。安心安全な環境は整えていかないといけないと考えている。

○福祉会館の解体後について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・福祉会館の解体後の予定について聞きたい。

【市長】

- ・事務所等は多世代ふれあいセンター等に、貸館等の機能については、市役所の2期棟やボスティビルド等へ移設する予定となっている。
- ・解体後の土地の利用については未定となっている。

○ふれあいセンターの適正配置について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・現在、学校の適正配置については協議されているが、ふれあいセンターの適正配置の考えもあるのか聞きたい。

【市長】

- ・ふれあいセンターの適正配置の議論はしていない。防災の観点から、ふれあいセンターは必要であると考えており、統合は考えていない。

○ごみ袋の有料化について

【環境衛生連合会支部長】

- ・ごみ袋の有料化については、有料化による歳入をどの財源とするのかを市民に説明する必要がある。ごみ処理場の建設費用に充てると思われてはいけない。ごみ袋をカーボンニュートラルに変える等、市民が納得する理由である必要がある。

【市長】

- ・現在、ごみ処理場が建て替えのタイミングであり、ごみの減量化やごみ袋の有料化と一緒に検討していく。
- ・ごみ袋の有料化が、どのように持続可能なごみ収集システムにつながるのかを、市民の皆さんに理解してもらわなくてははいけない。環衛連とも一緒に考えていきたい。